

朝鮮半島南部のモンヘビトンボについて

相坂 耕作

Notes on *Neochauliodes sinensis* (WALKER)
on Korean by Kousaku Aisaka

筆者は1993年夏、韓国へ訪問した際モンヘビトンボの死体をひらっているので報告しておく。明地山へ行く途中、京畿道加平郡下面サンバン付近の行楽地の食堂において灯下に飛来したと思われるモンヘビトンボを得たものである。図鑑等ですぐモンヘビトンボとわかったが、さらに詳しく知るべく文献類をあさったところ庵美大島のモンヘビトンボについて(月刊むしNo. 228 Feb 1990 林 文男)がみつかった。その文献を読んでいると、モンヘビトンボの分布域(4)と地理的変異(5-11)があり、文中で林文男氏が「翅の斑紋には、地理的変異が認められる。また台湾産のモンヘビトンボは個体変異が大きく、図10に示すような黒化型がみられる。朝鮮半島にはチョウセンヘビトンボ *Neochauliodes Koreanus* WEELE が生息することになっているが、香港産のモンヘビトンボと一部混同しており、WEELE 自身、記載の中で、モンヘビトンボの亜種にすぎないかも知れないと述べている(WEELE, 1909)。松村(1931)に描かれているチョウセンヘビトンボの図をみるかぎり、朝鮮産のものは、斑紋の発達が悪い傾向にあるが、モンヘビトンボだと考えられる。朝鮮および中国大陸のモンヘビトンボ類の標本をお持ちの方は変異の実態を明らかにするためにも、ぜひ発表していただければと思う。」とあり、筆者としてもせっかく朝鮮半島南部のモンヘビトンボを入手しているので、取り急ぎ展翅し、図4-11と比較してみることにした。それが筆者所蔵の(図-1)の各パターンである。

各々個体変異はあるが、図のように京畿道サンバン産は♂♀の違いは別として図4-11からみれば5の対馬産とよく似た傾向を示している。

林文男氏の文中、対馬での成虫(3♂1♀)の採集記録は7月中旬~下旬。石垣島や西表島では4月~7月。台湾では3月~10月に成虫が採集されている。これからいくと朝鮮半島南部韓国はやはり対馬に近く、6月下旬~7月上旬に成虫が羽化したものと思われる。ちなみに死体を拾ったのは1993-VII-10である。

参考文献

林 文男 (1990) 月刊むし(228)P14-15

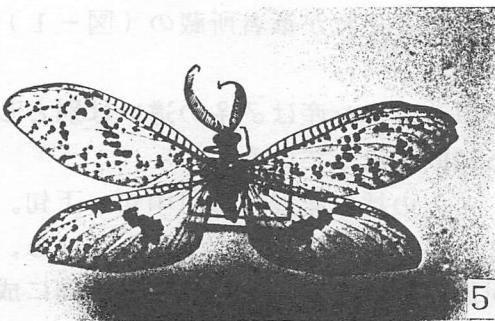
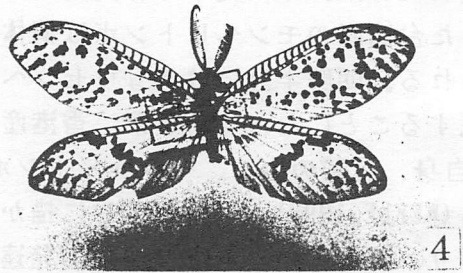
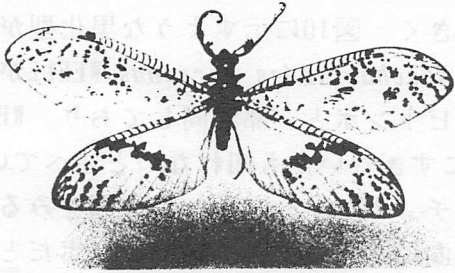
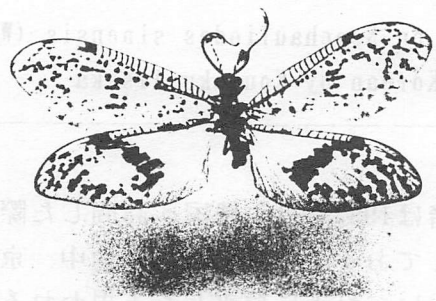
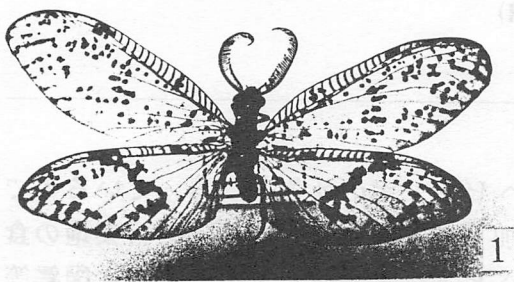


図-1 朝鮮半島南部(韓国)のモンヘビトンボ

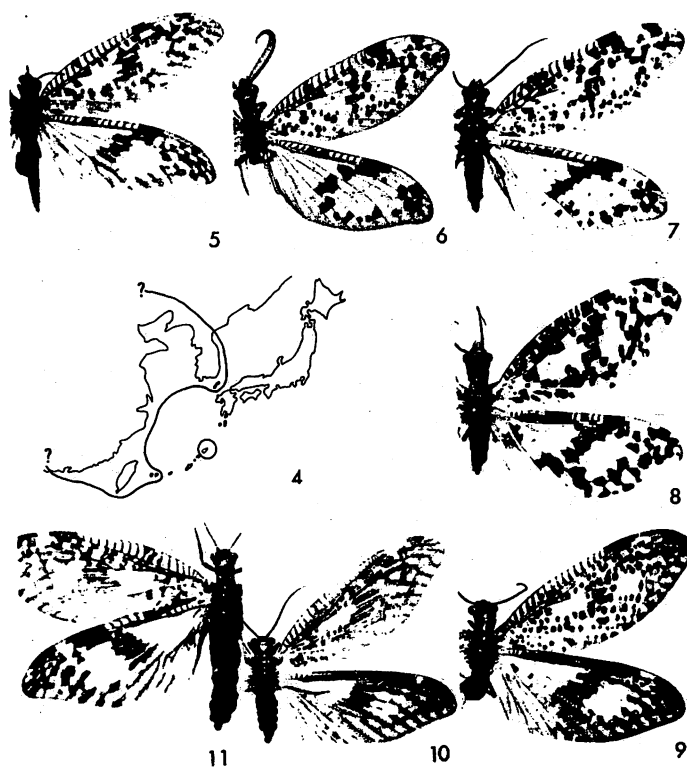


図4-11 モンヘビトンボの分布域(4)と地理的変異(5-11) 5. 対馬産♀(ASA-HINA, 1970より) 6. 奄美大島産♂ 7. 同♀ 8. 西表島産♀ 9. 台湾産♀
 10. 同黒化型♀ 11. 香港産♀(張・許, 1979より)〔5-11の倍率は一定ではない〕